



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより
学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

平成30年度 第4号
平成30年7月2日(月)発行
さいたま市立宮原中学校
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp>
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp

君たちはどう生きるか

校長 松井 聡

本校卒業生で、学校評議員、宮中夢チャレの先生としても大変お世話になっている関根廣さんから、次のメッセージと一緒に一冊の本を寄贈していただきました。

本のタイトルは「君たちはどう生きるか」。1937年に発刊された吉野源三郎氏の作品を羽賀翔二氏が漫画化したもので、昨年8月に発刊されました。引退をくつがえした宮崎駿氏の新作ジブリ映画のタイトルにもなるなど、世間では話題になっているので既に読まれた方も多いかと思います。

「宮原中のコペル君へ」……私は60年前にこの宮原中学校で学びました。すでに仕事を終えて土チャレで母校に来ています。この本は「皆さんと同じ年代に読んでいたら、私の人生も変わっていたかもしれない」と思えるほどいい本でした。コペル君は皆さんと等身大の中学生です。身近にあるいじめや貧困のことを自分なりに深く考えていきます。高校受験でそれどころじゃないよ、という声が聞こえそうですが、中学時代はそれだけでいいのでしょうか。中学時代は友人や社会や文学や科学に関心が芽生えるときです。そういう自分の感性に正直に生きているのがコペル君だと思います。あなたもコペル君のように、自分に正直に向き合って自分の生き方を考えてください。勉強や部活にいそがしい中学時代ですが、若い感性で世の中や自分のこれからの生き方を考えることも大切なことだと思います。

宮原中卒業生 関根 廣 (一部抜粋)

この本は、今から70年以上前の中学生の日常を舞台に、学校での出来事や主人公の苦悩などを取り上げた名作です。中学生のコペル君(コペルニクスを略したあだ名)が学校での出来事を叔父さんに相談し、これに叔父さんがノートで様々なアドバイスをする往復書簡の形をとっています。

話の中にこんな場面があります。上級生に目をつけられた友人を、みんなで守ろうと決めていたのに、雪の日の校庭で、その友人が上級生に殴られ、他の仲間も友人を守ろうとして一緒に殴られているのを、一人コペル君だけが、怖くて動けず、傍観してしまいます。そんな情けない自分に対しての「もう消えてしまいたい」という失意と絶望感、「みんなにもう会わせる顔がない」という孤独感……。どうすることも出来ずに悩んでいた時に、おじさんはノートに次のように文章を書きます。

「コペル君、いま君は大きな苦しみを感じています。なぜそれほど苦しまなければならないのか。それはね、君が正しい道に向かおうとしているからなんだ。君が正しい生き方を強く求めているからだ。このノートを最後まで読んでくれれば、コペル君、きっと君は、自分を取り戻して新たな一歩を踏み出すことができる。」

自分のしてしまったことから「逃げ出そうとする自分」と「立ち向かおうとする自分」のせめぎ合いの部分は、現在の中学生に日常的に起こっている多くのシーンと重なります。この他にも、色々な場面で私たち一人一人に自分の生き方を問いかけてくる、とっても読み応えのある内容です。皆さんに是非読んでほしい一冊です。

この本は、関根廣さんのメッセージと一緒に本校の図書室に置かせていただきます。

本当にありがとうございました。

